

# この出会いが、 福祉の未来を変える

アジアと日本の“学びあい”をつなぐ、あなたの役割



タイの山岳地帯から来日した一人の若者。

紛争から逃れ、見知らぬ土地で暮らす難民、家族を失った子どもを支える活動に従事しています。

「福祉って、誰かのそばにいること」

その思いを胸に、彼女はアジア社会福祉従事者研修に参加しました。

彼女と出会った日本の職員は、こう語ります。

「自分がこの仕事を始めたときの気持ちを思い出した気がします」

制度や文化を越えて、共に働き、共に語るなかで、

“支援”は“まなざし”に変わっていきます。

このつながりを支えているのが、

国際交流・支援活動会員制度です。

あなたの一歩が、アジアと日本の福祉を、未来へつないでいきます。



ふれあいネットワーク



社会福祉  
法人

全国社会福祉協議会

国際社会福祉基金委員会



# アジア社会福祉従事者研修とは？

全社協が1984年から行っているこの研修は、**アジア各国の福祉実践者（ソーシャルワーカー、福祉施設職員など）**が日本に約11か月間滞在し、日本語や日本文化、日本の社会福祉制度の学び、福祉実践の見学と研修を通じて「支援の本質」を体得するプログラムです。



## 研修計画 (例:2025年度)

日本の社会福祉について学び、議論するために

講義と見学  
5回

福祉実践  
研修(実習)  
2回

母国の  
福祉を発展

目的:日本の社会福祉の実践と職員や利用者との交流の理解

- ① 面談(研修生の意向把握)
- ② リサーチ(研修先についての情報収集)
- ③ 目標設定(研修目標設定支援)
- ④ 研修の実施
- ⑤ スーパービジョン(研修中のサポート)
- ⑥ 報告(研修の振り返り)

3月

来 日

3～6月:全社協で日本語学習  
6月 :福祉現場の見学(2か所程度)

7月中旬～8月末

### 福祉実践研修①

研修生の専門分野、目的に応じ、  
日本の福祉現場で研修します

9月:全社協で福祉実践研修①の振り返り、次回研修に向けた学び・準備  
9月:福祉現場の見学(2か所程度)



10月上旬～1月中旬

### 福祉実践研修②

日本・母国の福祉に関する学びを深めます

1～2月:全社協で研修全体の振り返り、修了式に向けた準備  
2月 :福祉現場の見学(2か所程度)

2月

修了式



修了生として、日本と  
母国をつなぐ役割へ…

2月

帰 国

修了式での研修生  
スピーチをご覧ください

研修事業では、最後に成果報告と交流の場として「修了式」を2月に開催し、会員の皆さんにご案内しています。第38期(2024年度)の研修生5名のスピーチは以下YouTubeにアップしています。



# 現場に生まれる“気づき”と“誇り”

—福祉現場に国際交流の風を届ける—

アジアからの研修生が現場に入ること、日本の社会福祉と地域社会のあり方について新たな視点と対話が生まれます。

文化や制度の違いを越えた「問いかけ」は、

支援の本質を見つめ直すきっかけに。

職員の育成や現場の活性化にもつながっています。

また、会員法人はさまざまな形でこの研修を取り入れ、組織全体の成長の場として活用しています。

## 人材育成に

- ・若手職員が「支援を伝える力」を身につける
- ・中堅職員が制度や理念を再確認する機会に



## 地域連携に

- ・地域住民との交流イベントで、国際理解を深める
- ・地域にむけた活動、災害福祉連携などで他国の実践を活用



## 広報・採用に

- ・「世界とつながる組織」というブランド形成
- ・学生や若手人材へのアピール材料に



### 活用スタイル別の事例

## VOICES



社会福祉法人桃林会 副理事長  
社会福祉法人豊悠福祉会 理事長  
園田 裕紹さん

### 国際会議への参加は自法人の価値を再確認するチャンスに

台湾で開催された日韓台民間福祉代表者会議と、スタディ・ツアーに参加しました。

会議で自法人の実践をスピーチしたところ、興味を持ってもらい、多くの質問を受けたことが印象的です。海外の目を通じて、**私たちの法人で行っている実践の価値を再確認**できました。

修了生との交流、現地視察のプログラムもありました。福祉の理念を磨き続けるうえで、貴重な経験です。



社会福祉法人ライフの学校 理事長  
田中 伸弥さん

### 未来の福祉を考えるために、世界とつながる

アジア社会福祉従事者研修の研修生の見学研修を受け入れ、見学とともに意見交換をしました。

ライフの学校では、外国人材の受け入れとともに、職員に海外研修の機会をつくっています。**未来の日本の福祉や法人のあり方を考えるとき、世界とつながり、支えあって、学びあうことが大切**であると考えています。

日本の外にも目を向けることで、職員の成長のきっかけになっています。

職員が“うちの支援ってすごいことだったんですね”と誇らしげに話してくれました

— 社会福祉法人 理事長

会員法人  
の声

“仕事を通し世界とつながる”  
という言葉で、  
学生の目が輝きました

— 社会福祉法人 採用担当

あなたの福祉の現場にも、国際交流という“育つ風”を。

「教えることは、学ぶこと。」その実感を、ぜひ体験してください。

# あなたの一步が、ともに未来を育てる力に —「支援する福祉」から「つながる福祉」へ—

この事業は、40年以上続く各国の民間福祉従事者の間の揺るぎない絆を基礎として、社会福祉の発展を通じ、国を超え、ともに未来をつくる力を育てています。多くの日本の福祉関係者の想いをもってスタートし、継続してきた事業を、あなたの参加でさらに発展し、広げてください。

## 参加できるプログラムの一例(会員向け)

- 研修生の「修了式」(研修報告+交流会)
- オンライン「社会福祉WEBミーティング」  
⇒例:「孤独・孤立」問題への対応をテーマに、アジア各国の研修生・修了生と、地域住民との協働による「居場所づくり」の事例紹介と情報交換を行う(毎年、テーマを決めて実施予定)
- アジア各国に出向き現地の福祉を学ぶ「スタディ・ツアー」  
⇒例:インドネシアで福祉活動の視察や育むプロジェクトの支援対象児との交流を実施。インドネシアの地域開発や子ども福祉について学び、修了生と情報交換を行う。(左記は2023ツアー内容)

## 会員サービス一覧(抜粋)

- 研修報告書(年1冊)/ニュースレター(年3回)等の資料無料配布
- 視察・交流イベントへのご案内  
⇒例:スタディツアー、アジア社会福祉WEBミーティング
- 法人紹介ページへの掲載(希望制)
- 国際福祉セミナーでの登壇・共催のチャンスあり

## 「国際交流・支援活動会員制度」について

福祉の国際交流・支援活動の趣旨にご賛同いただける方におかれましては、ぜひ「国際交流・支援活動会員」への登録をお願いいたします。「まずは話を聞いてみたい」だけでも大歓迎です。あなたの“つなぐ一歩”を、お待ちしております。

### 1 会員区分・会費について

#### 法人・組織会員…1口 5万円

国際交流・支援活動(育むプロジェクトを含む)にご参加・ご支援いただける**法人の方**

#### 賛助会員…1口 5万円

主に経済的に活動を支援いただける**法人・組織の方**

#### 個人会員…1口 5千円

国際交流・支援活動(育むプロジェクトを含む)にご参加・ご支援いただける**個人の方**

#### 育むプロジェクト支援会員…1口 5千円

育むプロジェクトにご参加・ご支援いただける**法人・組織、個人の方**

### 2 会費の取り扱いについて

会費は、社会福祉の国際交流・支援活動の財源となる国際社会福祉基金への拠金として受け入れさせていただきます。

会費の主な用途は、アジア社会福祉従事者研修の研修費用、スタディ・ツアーやアジア社会福祉セミナーの開催経費、研修修了生が母国で取り組む福祉活動の事業費、「育むプロジェクト」におけるアジアの子どもたちへの支援金、基金の運営経費等です。

## ご登録のお申込み

別紙の登録申込書に必要事項をご記入のうえ本会までお送りいただくか、右記のQRコードよりお申込みください。

#### みずほ銀行へお振込みいただく場合

【お振込み先】みずほ銀行 新橋支店  
普通預金 口座番号:2622406  
名義:福)全国社会福祉協議会  
国際交流・支援活動会員会費口

#### ゆうちょ銀行へお振込みいただく場合

別紙「払込取扱票」に必要事項をご記入のうえ、  
ゆうちょ銀行(ATM/窓口)にて払込の  
お手続きをお願いいたします。



<https://forms.gle/RrbVuu3mkawmnZ4b7>